

グループホーム徹底活用ガイド

はじめて福祉サービスを利用する方・家族のための実践講座

かざみどり相談室 主任相談支援専門員

宮崎充弘

90分講義資料

事例入り

主催：(社福) 大阪手をつなぐ育成会 / 和泉市手をつなぐ親の会

令和8年
2月12日
10:30~
12:30

「安心の未来へ」
障害のある
わが子のための
グループホーム徹底活用ガイド

公開
セミナー

参加費
無料

現地参加と
後日配信

会場
和泉シティプラザ 地下1階多目的室
大阪府和泉市いぶき野五丁目4番7号
(南海電鉄泉北線 和泉中央駅下車すぐ)

後援
和泉市
和泉市教育委員会
社会福祉法人和泉市社会福祉協議会

テーマ
「安心の未来へ」
障がいのあるわが子のための
グループホーム徹底活用ガイド

講師
特定非営利活動法人サポートグループ
ほわほわの会
代表理事 宮崎充弘 氏

定員
現地参加 80名
後日配信 200名 (ライブ配信なし)

・いろいろな
タイプの
グループ
ホームがある

・入居までに
身につけておきたい
スキル

・入居後の
親子の
関わり方

・グループホームの
選び方

・良いグループ
ホームの
見極め方

・親亡き後への
備えと
グループホームの
役割

・費用の
仕組みと
利用手続き
の流れ

・グループホーム
入居後の
本人の変化と
成長

お問い合わせ

お申込みはこちら
申込み締切
1/30 (金)

社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会
電話 072-869-6555 HP www.osaka-ikuseikai.or.jp/

なぜ今、グループホームを考えるのか

グループホームは「最後に行く場所」ではありません。暮らしを整え、本人の人生を続けていくための「途中の選択肢」です。多くの方が「まだ早い」「自立してから」と考えがちですが、実際には支援を受けながら生活を安定させ、本人らしい暮らしを築いていく場所なのです。

今日の講義では、制度の説明だけでなく、実際の事例を交えながら「どんな人が、どんな使い方をしているのか」を具体的にお伝えします。不安や疑問を一つひとつ解消していきましょう。

本日の講義の目的

- グループホームを具体的な生活イメージでわかる
- よくある不安や誤解を事例で整理します
- 本人と家族が安心して「選び・使う」ための視点を持てるようになる

グループホームの基本と制度

グループホームは、支援を受けながら地域で暮らす住まいです。「身辺自立ができていなければ入れない」という誤解がありますが、実際には生活の不安を減らし、安心して暮らすための制度として設計されています。

支援内容

食事・服薬管理、金銭管理、日常生活の見守りなど、本人の状態に応じた個別支援を提供します

利用対象

障害支援区分が認定されている方。自立度に関わらず利用できます

地域での暮らし

施設ではなく、地域の中で普通の生活をすることを重視しています

❏ **重要ポイント:** 自立してから入るのではなく、入ってから整える。「全部できる」より「安心して続けられる」ことを重視します。

自立していないと入れないと思っていたケース

20代男性のケース

食事や服薬の管理が難しく、家族が全面的に支援していました。「まだ自立していないから無理」と思っていたが、グループホームを利用し、スタッフの見守りの中で生活が安定しました。

現在は金銭管理の一部を本人が担えるようになり、買い物や趣味の活動も楽しんでいます。家族も「早く相談すればよかった」と話されています。

このケースから学ぶこと

01

完璧な自立は前提ではない

02

環境を整えば、できることが増える

03

家族の負担軽減も重要な視点

04

スタッフとの信頼関係が成長を支える

利用料金の考え方と内訳

グループホームの利用料金は事業所ごとに異なります。必ず内訳を確認し、「何が含まれているか」「何が別料金か」を明確にすることが大切です。想定外の費用が発生しないよう、契約前にしっかり確認しましょう。

主な費用項目

- ・ 家賃(地域によって差があります)
- ・ 食費(1日3食の場合が多い)
- ・ 水光熱費(定額制か実費制か確認)
- ・ 日用品費(消耗品など)
- ・ サービス利用料(原則1割負担)

費用確認のチェックポイント

総額の目安

月額5万円～10万円程度が一般的。地域や支援内容で変動します

別途費用

医療費、嗜好品、外出費などは別途必要になることが多いです

減免制度

所得に応じた負担上限額があります。市区町村に確認を

よくある不安・質問と実際の事例

1

Q: 高齢になり介護が必要になったら？

介護保険や医療と組み合わせることで、住み続けることが可能です。状態に応じて支援を「足す」「変える」ことができます。

2

事例②: 50代でグループホームに入居

60代で身体機能が低下しましたが、訪問介護と介護保険を併用することで、住み慣れた環境で暮らし続けるために、状態変化に応じた柔軟な対応が可能です。

3

Q: 他害行為や行動障害があっても？

一律に「入れない」わけではありません。環境調整と適切な支援方法があれば、落ち着いて生活できるケースも多くあります。

4

事例③: 強いこだわりから他者とトラブルになることがあった方

少人数のグループホームに変更し、環境調整と支援方法を統一したことで、行動が落ち着きました。人ではなく「環境」を見ることが重要です。

❏ **ポイント:** 合うホームと合わないホームがあります。「環境」との相性を見極めることが大切です。

見学・体験の重要性と選び方



見学する

体験する

判断する

見学では、雰囲気、スタッフの関わり方、ルール理由を見ます。パンフレットやウェブサイトだけでは分からない「実際の暮らし」を確認することが最も重要です。

事例④：2か所のグループホームを体験

一方はルールが多く息苦しさを感、もう一方は説明が丁寧で本人が「ここなら大丈夫」と判断しました。スタッフの関わり方や他の利用者との相性も確認でき、納得して選ぶことができました。

見学・体験で確認すべきポイント

- 本人の感覚を大切にする
- スタッフの言葉遣いや対応を観察
- 他の利用者の様子や雰囲気
- 体験しないと分からない「空気感」

医療的ケア・多様なケースへの対応

医療的ケアがある場合

訪問看護や医療連携で対応します。「できない」ではなく「どう組み合わせるか」を考えることが重要です。

事例⑤: 服薬管理と吸引が必要な方。訪問看護と連携し、夜間は緊急連絡体制を整備して入居。医療と福祉の連携により、安心して暮らしています。

不登校・ひきこもりのケース

日中外出が前提ではありません。まず生活リズムを整えることから始めます。

事例⑥: 長期間ひきこもりだった若者。グループホーム入居後、まず生活リズムが安定し、半年後に少しずつ外出が増えました。「外に出す」支援ではなく「暮らしを整える」支援が重要です。

重要事項説明書とチラシの見抜き方

重要事項説明書の見抜き方

「全部読む」ではなく、必ず見るべき4点に絞って解説します。

1 サービス内容が具体的に書かれているか

抽象的な表現ではなく、具体的な支援内容が明記されているか確認

2 費用が「込み」か「別」か明確か

追加費用が発生する項目を見落とさないように

3 退去・解約条件が小さく書かれていないか

不利な条件が目立たない場所に書かれていないか注意

4 苦情相談窓口が形式だけになっていないか

実際に機能する相談体制があるか確認する

チラシ・誇大広告を見抜く視点

以下のようなキーワードには注意が必要です：

- ・ 「絶対安心」「必ず自立」「24時間完全サポート」
- ・ 写真やイラストばかりで支援内容が見えない
- ・ デメリットや制限の説明がない

❏ **必ず照合する：** 広告 → 重要事項説明書 → 口頭説明。この3点を照合することでトラブルを防げます。「書いてあること」より「書いていないこと」に注目しましょう。

親なきあと・今日のまとめ

親なきあとの備え

相談支援専門員、行政、後見制度と連携することで、家族だけで抱えず、仕組みで支えることが重要です。早めに相談し、本人を中心とした支援体制を整えていきましょう。



相談支援

定期的な面談で状態確認と計画更新



行政連携

福祉サービスの調整と情報提供



後見制度

金銭管理や契約行為のサポート

本日の重要ポイント

- ・ グループホームは「最後の場所」ではなく「暮らしを整える選択肢」
- ・ 自立してから入るのではなく、入ってから整える
- ・ 合わなければ調整や変更ができる
- ・ 見学・体験で「本人の感覚」を大切に
- ・ 重要事項説明書とチラシは必ず照合する
- ・ 本人が安心して今を生きるために、制度を「使いこなす」視点を持つ